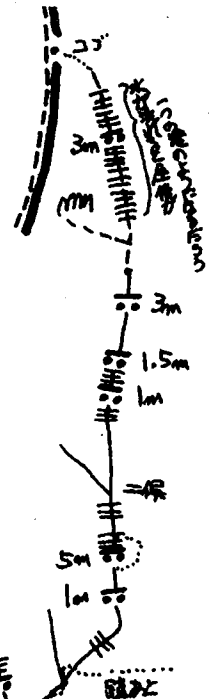


けながら通過する。このあたり、ちょっと雰囲気がいい。次の5m滝はどまん中を直登。水が多ければこんな芸当はできない。もっとも左右どちらも簡単に登れる。沢幅もせまくなってきた。もうこの沢も終わりだ。急なナメを登りきると岩の間からしみ出す水が水源となっていた。14時50分。ここから右手尾根上めざしてやぶをこぐ。尾根上にはわずかだが踏跡があった。(記)

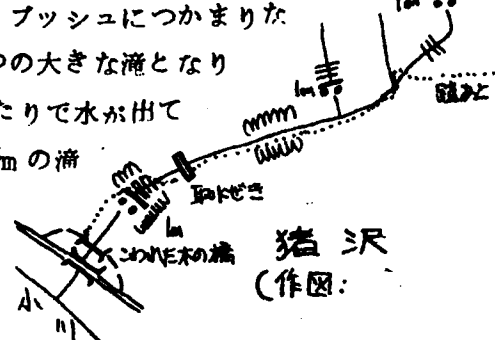
出合(14:15)——沢終了(14:45)——尾根(15:00)



猪沢(下降)

1982年6月12日

標高約860mの小ピークまで登ってから猪沢に向けて下降開始。すぐにカレ沢に出る。急な岩場の下りで、ブッシュにつかまりながら下る。雨が降って水が流れると、一つの大きな滝となりそう。傾斜がゆるやかとなってきたあたりで水が出てきた。ナメと小滝が出てくるが平凡だ。5mの滝を越えると、沢の切れこみが深くなってきたが、単調さは変わらない。踏跡も出てきた。左岸の小尾根から下ってきて、沢ぞいにずっと続いている。どうもこの沢ははずれのような。16:25取水口に着く。沢の中を鉄管を通して水を引いている。どこへ引いていくのかは確かめなかった。16:30こわれた旧国道の橋の下をくぐり、13号国道に上がる。(記)



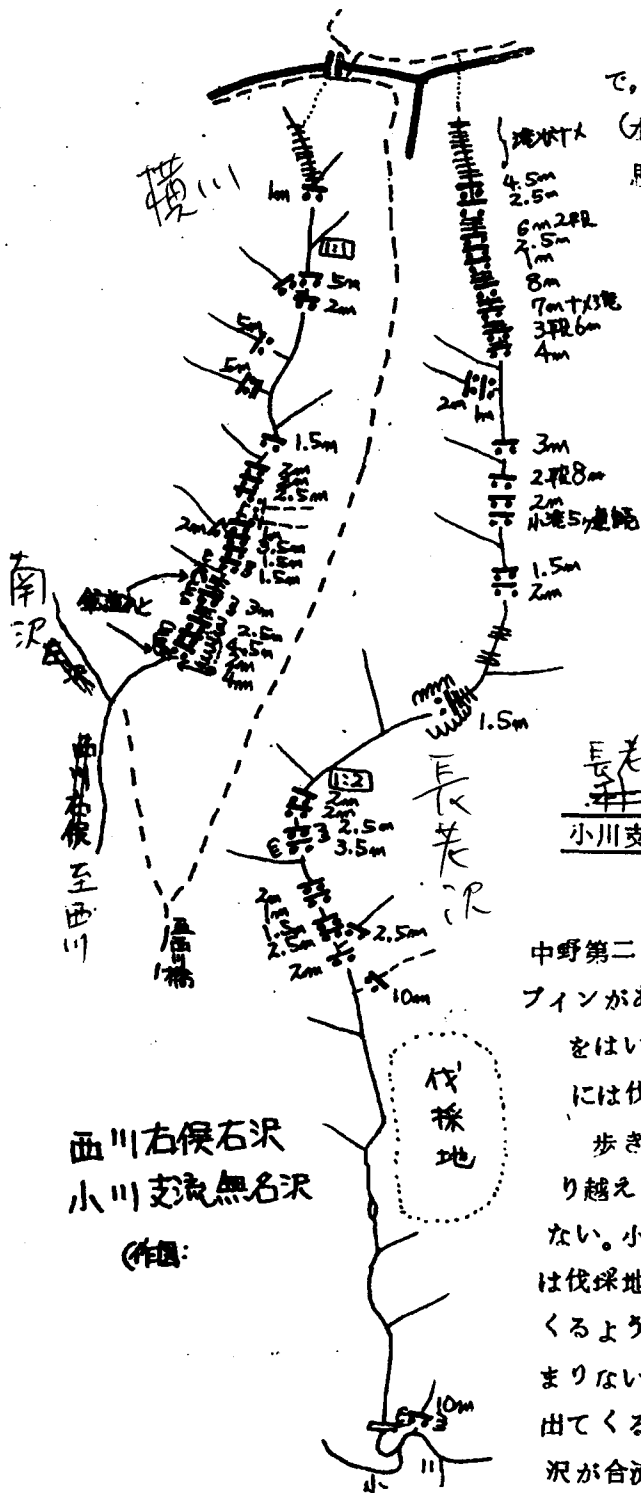
下降開始(15:10) 二俣(16:05) 13号国道(16:30)

西川支流 猪沢
西川右俣右沢(下降)

1982年5月26日

L

下りはじめるとすぐ水が出てきた。ナメ状となっている。次々と支沢を合わせ、小滝を越えてゆく。下ってゆくうちに、右岸に鉱道あとがあった。ここで何をほっていたのだろうか。更に小滝をいくつか越えてゆくと4mの滝に出た。両側が岩壁



で、ちょっときびしい。左岸を捲き、小沢
 (水無し)を伝って降りられたが、訓練と
 思って、ザイルを取り出し、下降。ここ
 の右岸にも鉱道あとがあった。ヘッド
 ランプを出し中をのぞく。奥が深い。
 中に中に入ってみるが、ドロが厚く
 潰もっていて、スポと入るのです
 ぐ引き返す。ここから左沢出合ま
 ではすぐだった。さらに20分程下
 ってから左岸の登山道めざして
 やぶをこぐ。(記・共戸宰務)
 下降開始(13:00)——左沢出
 合(14:50)

長老沢
 新沢
 小川支流無名沢

1982年5月26日

L和

中野第二トンネルを出ると、すぐ右側にドライ
 ブインがある。ここに車をとめて入溪。わらじ
 をはいて小川を渡り出合より廻行開始。左岸
 には伐採の道がある。

歩きはじめてすぐ砂防ダムがある。左岸よ
 り越えると、そのあとしばらくは平坦で何も
 ない。小沢が2本合流するあたりから、左岸に
 は伐採地が続く。中洲を過ぎ、兩岸がせまっ
 てくるようになると、左岸に10m程の滝(水はあ
 まりない)があり、その先からは本流にも滝が
 出てくるようになる。まず2mの小滝の上に小
 沢が合流して2条滝のように見える2.5mの
 滝。ここは滝の左を直登するが、右の方が楽で

ある。その上の2つの小滝(1m, 2m)は、私だけが直登して、2人は右岸を捲く。